

市政懇談会 「留萌子ども夢物語」



本年度は、市政運営における4つの重点的な取り組みの中でも、子どもたちの笑顔があふれ、子どもたちの夢と可能性が育つまちづくりとして「子ども夢物語」をテーマに様々な取り組みを進めています。

市政懇談会の概要

今回の市政懇談会は、未来に向けて安全安心で子どもたちの笑顔、夢を実現させる留萌を目指して、市民の皆さんから知恵をお借りして、また、情報の共有を進めるために開催しました。

最初に、情報提供として平成22年度決算状況（速報値）、東日本大震災の津波被害を教訓とした津波対策について説明し、「安全安心なまちづくり」「経済の活性化」「子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくり」について8班に分かれて話し合い、活発な意見交換が行われました。

開催状況

- ◆開催日時 7月2日(土) 13:00～15:00
- ◆開催場所 留萌産業会館 2階ホール
- ◆参加状況

委員会名	参加人数
町内会代表	20名
防災連絡員	28名
青少年健全育成推進員	10名
その他	1名
合計	59名

子どもたちに

勇気と生きる力を

子どもたちがこの地域で、このまちの環境の中でこのびのびと学ぶ、のびのびと生きていく、誇りを持つようなまちを責任を持って残していかなければなりません。

今年「子ども夢物語」ということで、私ども皆さんの意見をいただきながら、子どもたちに勇気と、そして生きる力を与えるための施策を改めて組み立てていくという思いであります。

グループ討議でいただいた意見から主なものを紹介します

子どもたちの夢と可能性を 育てるまちづくりについて

●町内会を中心となって動く人がいないために、子ども会は停滞している。30代ではどう子どもを動かして良いのかわからないので、市でリーダー養成をしてほしい。

●公園を町内会で清掃しているが、遊具が老朽化して撤去すると、後の補充がないため、遊具がほとんどなくなってしまう。また、トイレも閉鎖していて不便であり、子どもたちにとって魅力がなくなっている。

●高砂公園には水・トイレ・遊具がそろっており、地方からも遠足などで利用されている。整備されている公園には人が集まってくる。

●公園で移動図書館や読み聞かせなど、子どもたちが興味を示すイベントを行ってはどうか。

●市内の6児童館の子どもたちを一堂に集めた「子ども祭り」や「子ども盆踊り」の会場として、船場公園を活用できないか。

●財政が厳しくなってきたので、公園設備などの予算が子どもたちに使われていない。予算を分散するのではなく、集中して学校教育の充実を図るなどの取り組みが必要ではないか。やはり、子どもたちにお金をかけていくべきである。

●市内には保育所が3カ所あるが、南町など郊外にはないため、小規模でもいいので、分散して施設があればいい。

●中学生や高校生の行くところが無くなってきてかわいそうな状況で、その辺にも目を向けてほしい。

●温水プールを休止しているが、いつ再開できるのだろうか。市民は増毛や深川へ行っているのに、早急に再開してもらいたい。

●子どもに関しては、主婦や母親など女性の意見が必要なので、意見交換出来る場を設けるべき。

安全安心なまちづくりについて

●津波対策は、ハザードマップの完成が2年後ということ、それはそれで進めてもらいたい、が、「今どうすべきか」が重要なので、「今できること」を市民に対して何らかの形で示しておくべきではないか。特に、どこに避難すべきか早急に周知してほしい。

●日東団地、自由ヶ丘、ひまわり台などの袋小路や、海岸線などの避難道路は複数用意すべきである。

●防災計画で示される避難所について「津波の場合はここが安全です」というような具体的で確立されたものを示してもらいたい。

●高齢者をどのように避難させていくのが問題だと思う。特に、若者の少ない地区は高齢者同士が手を取り合い避難しなくてはならない。

●災害の種類、発生時期に応じた避難所の指定をお願いしたい。市の施設だけでなく、国や道などの施設を含めて検討してほしい。

●自主防災組織の拡大には、市をはじめ他団体との連携が必要であり、情報提供や意見交換の場を設定してほしい。

●今回の大震災の影響で防災に対する意識、危機感が高まっているが、これを継続させることが必要で、そのための情報発信が必要になってくるのではないか。

●地方からの来客があった場合、宣伝する物産の情報に乏しいので、情報の一元化のために道の駅が留萌にも必要ではないかと感じる。

●道の駅を地域活性化の受け皿として、海産物を大きな規模で販売してはどうか。道北観光の拠点としても受け皿になる道の駅が必要だと思う。まち全体の体制で活性化策に取り組むべきだ。

経済の活性化について

●地産地消の取り組みは、地元へのPRがもっと必要で、市民の理解が大切ではないか。

●留萌ブランドの確立が必要ではないか。スイーツや数の子、留萌米など札幌や旭川の方への売り込みも必要だが、まず地元へのPRをもっとすべきで、市民全体での取り組みを進めるべきではないか。千望高校の生徒も頑張っているのに、地元でもっとバックアップしていくべきだと思う。

●留萌の食を代表する物として数の子があるが、市内でこの食材を使用した料理を出すところがない。地元の人が食べる機会がないのは残念である。

●「うまいよーるもい市」のときは地方からたくさんの方が集まるように、留萌でしか食べられないような物、資源があるので、もっとPRを展開することが必要ではないか。

●消費者はもっと地元で買い物をするべき。物が高いとか、良い物がないなどという理由で、地方に買い物に行く人が多いと感じる。



市政懇談会の結果を 公表します

市政懇談会でいただいた意見を政策に反映していくために、その対応について市役所内部で十分な議論を重ね、方針がまとまり次第お知らせします。

また、この度の市政懇談会の内容につきましては、市ホームページ (<http://www.e-rumoi.jp>) に掲載しているほか、各町内会に一部ずつ配布してお知らせしています。

お問い合わせは
市・企画調整課 ☎42・1809

